

全国医学生対象 医療政策立案プログラム

第5回 医療政策ク拉克シップ 活動報告書



Health Policy Clerkship 2008

主催: 特定非営利活動法人 日本医療政策機構
協力: 東京大学 医療政策人材養成講座

医療政策クラークシップについて

東京大学 特任准教授
特定非営利活動法人 日本医療政策機構副代表理事
近藤正晃ジェームス

日本の新たな医療政策を組み立てる人材が求められています。

国民の医療政策に対する関心は高く、あらゆる生活領域の中で医療分野に対する関心が最も高いという調査結果が出ています。その一方で、国民の実に9割以上が現行の医療制度に不安を抱えているとも報告されています。この国民の期待と不安に応え、医療政策の改善と改革に取り組める人材が求められているのです。

医療政策人材の育成が難しいのは、医学と政策の双方に通じることが求められているからです。法学や経済学を学んだ人が医学部に入り直すことは日本では稀です。一方で、医学を学んだ人で、政策の世界に入る人も現時点では限られています。

当医療政策クラークシップは、こうした医療政策人材を育成するための一つの試みです。このような機会を通じて、医学生が政策に対する理解と興味を高め、また政策当事者が医学生へ門戸を開くきっかけになれば幸いです。

☆ ☆ ☆

このクラークシップは、中央省庁、メディア、大学、医師の皆様のご理解と多大なるご尽力で実現することができました。皆様に厚く御礼申し上げます。

クラークシップ参加者の中から、将来の日本の医療政策を担う人材が誕生することを願ってやみません。

概要

研究内容

- テーマ : 女性医師勤務環境の現状を把握し、改善のための医療政策を立案する。
- 内容 : 医療政策のステークホルダーからのヒアリングを実施し、その立場ごとの多様な視点を学ぶ。その上で、女性医師に対するインタビューと、女性医師の勤務環境について活動を行っている諸団体からのヒアリングをもとに、女性医師のニーズを反映させた勤務環境改善のための政策を立案し、医療政策関係者の前で発表する。

スケジュール

- | | |
|-------------------|--|
| 3/10(月) | オリエンテーション、医療政策概論
研修「問題解決手法」- マッキンゼー・アンド・カンパニー |
| 3/11(火) | 省庁ヒアリング
- 厚生労働省 - 経済産業省 - 財務省
チームビルディング |
| 3/12(水) | ヒアリング
- 万有製薬株式会社 - 日本経済新聞社 - 読売新聞社
インタビュースキルトレーニング |
| 3/13(木) | 国会議員ヒアリング - 民主党 古川元久 衆議院議員 |
| 3/13(木)
~14(金) | トピックレクチャー
- 女性医師を取り巻く環境 - ワークライフバランス - 病院経営・組織論
- 地域医療 - 在宅医療 |
| 3/14(金)
~17(月) | 女性医師インタビュー |
| 3/17(月) | 先行施策・先行研究レビュー
- 日本医師会 - 東京女子医科大学 - 株式会社 資生堂 - 女医の夫の会
- 東京医科大学 - 女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会 |
| 3/18(火)
~20(木) | 政策提言作成・報告会準備 |
| 3/21(金) | 報告会・修了式 |

(敬称略)

ご協力を頂いた皆様

【講師】

上沢 仁	マッキンゼー・アンド・カンパニー
遠藤 徹夫	マッキンゼー・アンド・カンパニー
照屋 華子	マッキンゼー・アンド・カンパニー
神ノ田 昌博	厚生労働省
松田 明広	経済産業省
新川 浩嗣	財務省
海老原 恵子	万有製薬株式会社
エリザベス・J・コブス	万有製薬株式会社
笹林 幹生	万有製薬株式会社
内藤 麗	万有製薬株式会社
廣川 シオミ	万有製薬株式会社
松本 慎次	万有製薬株式会社
前村 聡	日本経済新聞社
渡辺 勝敏	読売新聞社
川端 亮	医療政策クラークシップ2004 OB
古川 元久	民主党衆議院議員
天野 恵子	千葉県衛生研究所
西田 陽光	構想日本
往西 正博	株式会社リクルートドクターズキャリア
川越 正平	あおぞら診療所
山本 尚子	千葉県庁
泉 美貴	東京医科大学
羽生田 俊	日本医師会
川上 順子	東京女子医科大学
山極 清子	株式会社資生堂
藤巻 高光	女医の夫の会
藤巻 わかえ	女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会 (訪問順50音順・敬称略)

【インタビューイー】

石川 妙、木戸 道子、作田 優子、鈴木 純子、高野 順子、
田中 由紀子、対馬 ルリ子、土田 尚、手塚 弓紀子、南部 かおり、
錦織 真紀子、西村 直子、野津 朋子、野村 幸世、福島 智恵美
(50音順・敬称略)

【企画・運営・指導】

堀見 洋継 東京大学 医療政策人材養成講座
中村 正樹 医療政策クラークシップ2007 OB (敬称略)



東大病院における
講義風景



万有製薬株式会社
ヒアリング



グループワーク



国会見学

国会議員
ヒアリング



資生堂株式会社
ヒアリング



報告会

報告会



修了式

いつか きっと 誰かが ではなく ～医療政策クラークシップを終えて～

慶應義塾大学医学部5年 瀬戸 佑美

チームワーク、コミュニケーションの技術、そして自ら発信することの重要性、大きく分けてこの3つを、私は医療政策クラークシップを通して得ることが出来た。

クラークシップでは二つの範囲でのチームワークが発揮された。まず、全国津々浦々から集まった医学生。背景は人それぞれ異なり、性格や医療政策に対する考え方も十人十色である。そうした20人の医学生が2週間を共に過ごし、共に影響しあうことで成長し、視野を広めることが出来た。もう1つの範囲は政策提言を行うにあたり分けられた4人のチームである。私はチームDに属し、和気藹々と政策を考えることもあれば、意見を交換し合い、討論になることもあった。それぞれのメンバーが得意とするところも異なり、それらを補い合うことで「3人寄れば文殊の知恵」のように4人の力が倍増しているように感じられた。例えば、パワーポイントやエクセルを駆使して図やグラフを作るのがうまかったり、政策の詳細な部分を突き詰めて考えるのを得意としていたり、班員が疲れていてモチベーションが下がりつつあるところに喝を入れてくれたり…今、振り返っても恵まれた環境であったと強く感じる。同時に自分が「どこ」を得意としていて「どこ」が不得手かを理解する機会となったため、もし次同じような機会があったら、あえて不得意とする部分に挑戦して向上させたいと考えている。

思ったことを伝える技術というのは、生まれたての赤ちゃんでも持っている。お腹が空けば彼らは泣いて母親を呼び、機嫌がよければ笑ってそれを示す。しかしながら、大人になった私達も同じことをしていたら、社会はこうもうまくはいかないだろう(道行く人々が泣きわめいたり、笑っていたり自由にしていたらそれこそ滑稽な世の中である)。赤ちゃんのコミュニケーションから脱して、私達はいかに他者にうまく「思うこと」を伝え、「聞きたいこと」を聞き出すかというのは非常にテクニカルであることを再認識した。今回、講義としてもこの手法を学んだが、同時にその後続くヒアリングにおいてもそれぞれの先生が如何にして思っていることを伝えているかという手法を観察することでより理解を深めることが出来た。今後、医師として、あるいは1人の人間としてコミュニケーションを行うにあたり、活用していきたいと思う。

そして今回のクラークシップの中で最も得られた大きなことは、「自ら発信することの重要性」である。今まで「ああ、こうなればいいのにな」と思うことはあったとしても、それらは友達とのおしゃべりの程度で留まり、その意見を上に届けて動かそうということはしなかった。しかし、政策提言の発表を行い、ただ思うだけではなく「発信」することが重要なのだということを感じた。特に若い年代において感じられている意見・考えを広く提言する層の必要性を強く感じた。私もこの機会を通して、「いつか きっと 誰かが」と願うだけではなく、「今すぐ 私が」主張する姿勢を持ちたい。

今回のクラークシップを支えて下さった日本医療政策機構スタッフの方々、インタビューやヒアリングに関してくださったの方々、そして2週間を共に過ごしたみんなに心から感謝の意を表してこの文の終わりとさせて頂きます。本当にありがとうございました。

<クラークシップ事後アンケート(参加者コメント)>

<医療政策ヒアリング&レクチャー>

医療政策概論

「ここで固めた基礎が、その後得た膨大な量の情報を整理・理解する上で役立った。どんな問題を扱うにしても、その問題の社会全体における位置付けをつかむうえで欠かせない講義だと思う。」

マッキンゼー・アンド・カンパニー レクチャー

「問題解決を考える際に、漠然と考えるのではなく、仮説思考やMECE・ファクトを示すことで新しい発想を抱けたり、説得力や客観性を増すことができた。」

厚生労働省 ヒアリング

「医系技官の役割についてと、療養病床の再編の政策を決定する過程を説明していただき、とても興味深いお話を聞くことができた。」

経済産業省 ヒアリング

「医療費を負担する視点、医療を産業として活用する視点といった医療提供者とは異なった視点を知ることができ、「社会の一部としての医療」を考える必要を感じた。」

財務省 ヒアリング

「医療政策を考える厚生労働省とは別の視点、つまり国の金庫番として医療分野の中のどこに重点を置くのか、資金配分するのかを判断しているので、興味深く拝聴できた。」

チームビルディング

「まだあまり知らないお互いのことを知り合うよい機会であった。また、チームビルディングの手法にそれぞれ意味づけがなされていたのがよかった。」

万有製薬株式会社 ヒアリング

「医薬品の承認審査プロセスとドラッグ・ラグの問題が印象に残った。医薬品開発のプロセスとドラッグ・ラグについての知識は極めて乏しかったので有意義であった。」

日本経済新聞社 ヒアリング

「医療界ももっと情報を全面的に開示していく必要があり、その一つの方法として、新聞などのメディアの役割が大きいと、お話をきいて感じた。」

読売新聞社 ヒアリング

「医療ルネサンス」という普段眼にする記事がどのような人にどのような取材で書かれているのかということを知ることが出来た。」

インタビュースキル トレーニング

「色々なタイプのインタビュー相手にどう接すればよいのか、考えるきっかけとなった。」

国会議員 ヒアリング

「国会議員が、実際にはどのように医療政策に携わっているのかを知る事ができ、大変興味深かった。」

<トピックレクチャー>

女性医師を取り巻く環境

「女性医師の労働環境を示唆する統計を多く見せていただけてよかった。」

ワークライフバランス

「work life balanceを考えて生きることは非常に大切なことだと感じた。労働環境、仕事を考えることは人生をどう生きるかを考えることと同じことなのだと思う。」

病院経営・組織論

「学校の医療政策の授業で「病院長の教育が必要」と習ったがそのときは具体的に考えられなかった。組織の経営を行うに当たり、リーダー教育の必要性を強く感じた。」

<クラークシップ事後アンケート(参加者コメント)>

<トピック別ヒアリング(続き)>

在宅医療

「在宅医療について今まであまり知識がなく、在宅で見られない患者さんはいないと知って大変驚いた。大変貴重なお話であった。」

地域医療

「公立病院の医師不足対策のご苦労話しをお伺いでき、行政サイドの懸命な取り組み姿勢が垣間見れた。」

<女性医師インタビュー>

「intervieweeの方々が非常に協力的で良い話し手だったことに助けられ、かなりの情報量を得ることができた。」

「実際に生の声を聞くことで、問題点や本当に必要な支援を知り、政策提言を考える上で、最も重要な時間だったと思う。」

<先行施策 / 先行研究レビュー>

日本医師会

「医師の職能団体としての機能を持つ医師会が、女性医師問題をどのように認識し、対応として取り組んでいるのかを知るいい機会となった。」

東京医科大学

「最近のアンケート調査ということで女性医師の現状を把握するのに参考になりました。ほかの大学でも調査をしたらどういふ結果になるか、気になった。」

東京女子医科大学

「労働「環境」について問いただそうとするには、労働「力」を確保できなくなっちゃうよ、という議論が有効性を持つというアイロニカルな構造を持つことが面白かった。」

女医の夫の会

「女性医師の環境問題や子育てを考える上で、その夫の協力や意識というものは無視できるものではなく、女性医師の7割が男性医師と結婚する中で今回唯一女性医師の夫としての男性医師の生の声をお聞きすることができ、非常に参考になりました。」

女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会

「具体的に自分の人生と照らし合わせてキャリアプランを説明して下さってわかりやすかった。ご夫妻の仲睦まじいご様子が伺えて私も相手探しを頑張ろうという気持ちに。」

株式会社資生堂

「女性の労働環境という点でトップを走る企業の現状を知って、医療界とのあまりの差に、医療界の古さを思い知った。」

< 報告会 >

準備

「かぎられた時間の中で、報告会に向けて班のメンバーと協力した。最初は議論も少なかったが、だんだんと活発になっていき、最終的にはまとめることができ、よかった。これからも限られた時間の中で何かをしなければならぬ事は多いと思うが、その中でより良いものを作り上げていくという経験ができてよかった。」

報告会

「なんとか自分たちの発表を終えることができ、本当によかった。黒川先生はじめ、多くの方々の前で、自分たちの政策提言を発表する機会は大変貴重な経験だった。」